

リサイクル対応設計方針(設計の規定)

方針の内容/5つの基本方針

- ・方針1:リデュースに関する規定

製品の小型・軽量化、長寿命化、部品数・ねじ数低減等、環境負荷低減のための規定

- ・方針2:リユースに関する規定

製品の回収性、分解性、再生性、を向上するための規定

- ・方針3:マテリアルリサイクルに関する規定

大型樹脂部品、金属部品、破砕不可部品の分解・分別性向上のための規定

- ・方針4:サプライ製品(消耗品)に関する規定

プロセスカートリッジ、トナー容器のリユース・リサイクルに関する規定

- ・方針5:包装材料の使用量削減及びリサイクルに関する規定

包装材料の使用量を低減するための規定

計200項目の詳細規定区構成

リサイクル対応設計／事例

再利用事例： 「相溶性シート」を採用

＜剥離困難な操作デカル＞

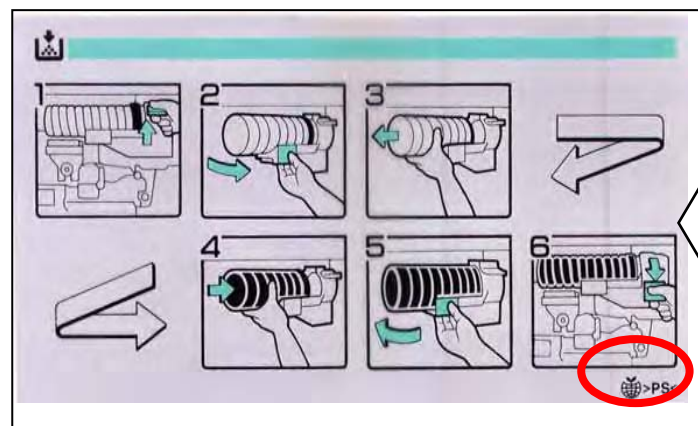


前カバーと同じ材質の
>PS<を採用・表示

RICOH このシールをはがさずにリサイクルできます>PS<

〈消耗品のご注文先〉	〈機械修理のご連絡先〉
TEL: _____	TEL: _____
FAX: _____	FAX: _____

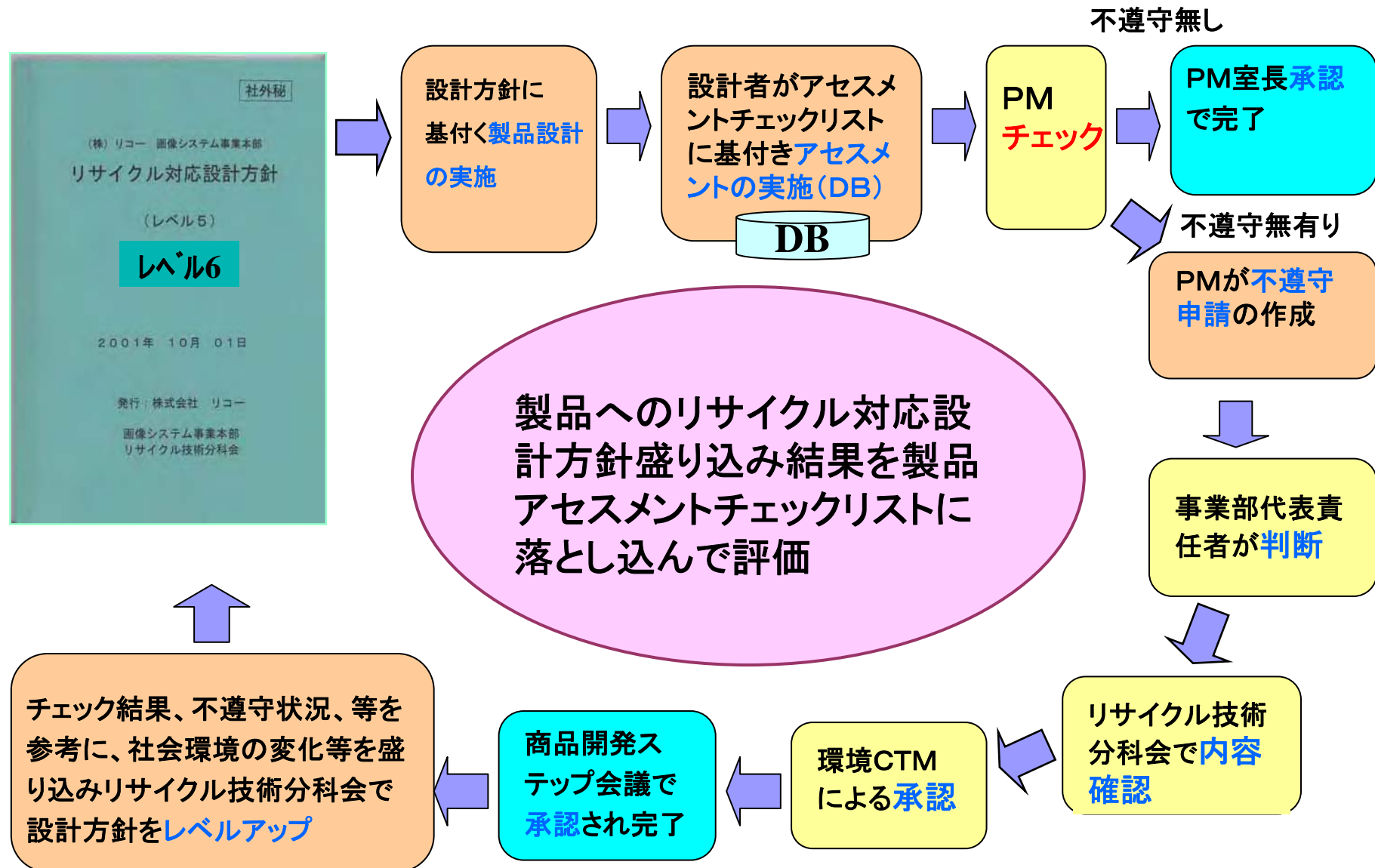
サービス連絡先シート



トナー補給説明シート

接着が必要な場合は同じ材質の「相溶性シート」を採用

リサイクル対応設計アセスメント



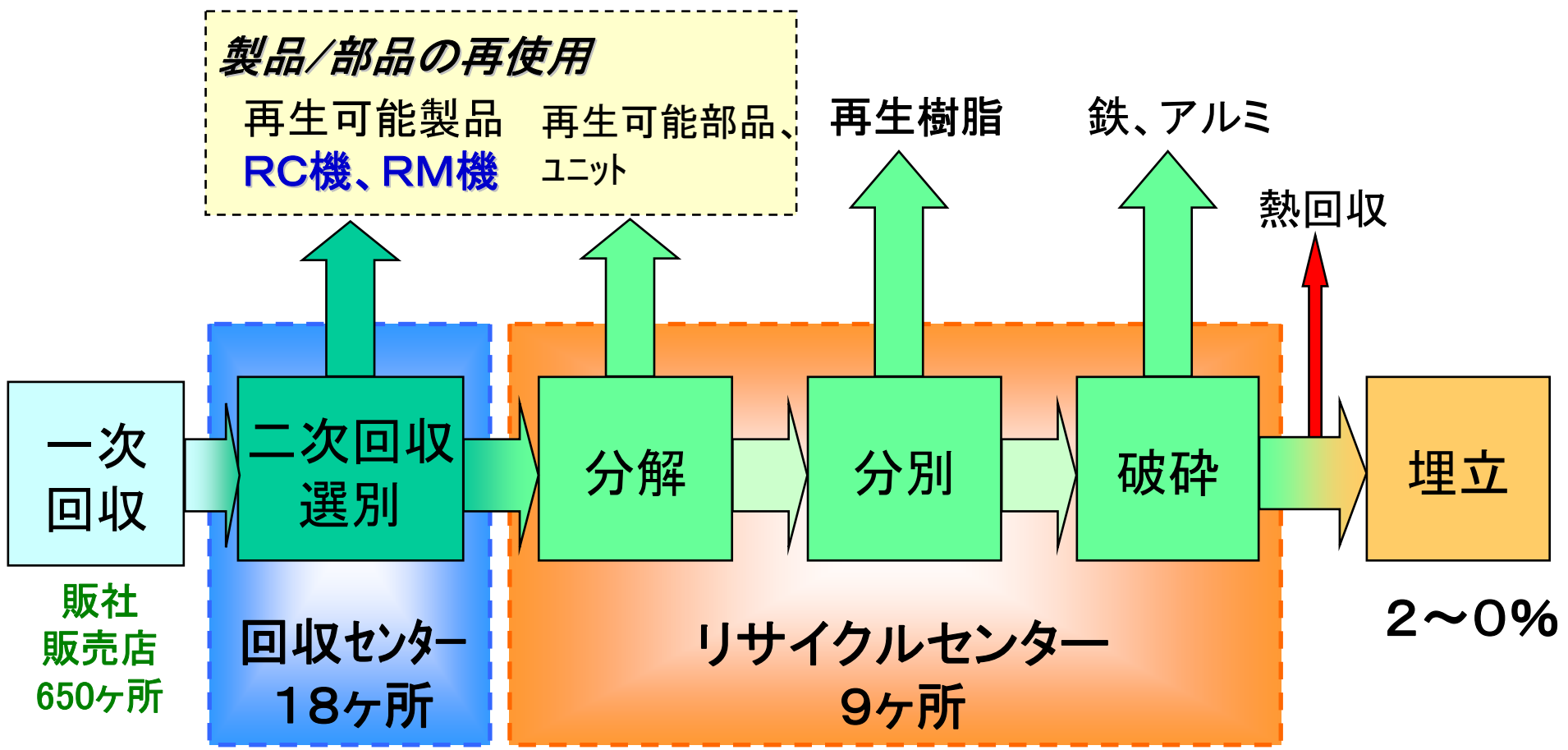
回収製品のリユース・リサイクルフロー

日本市場

再生センター

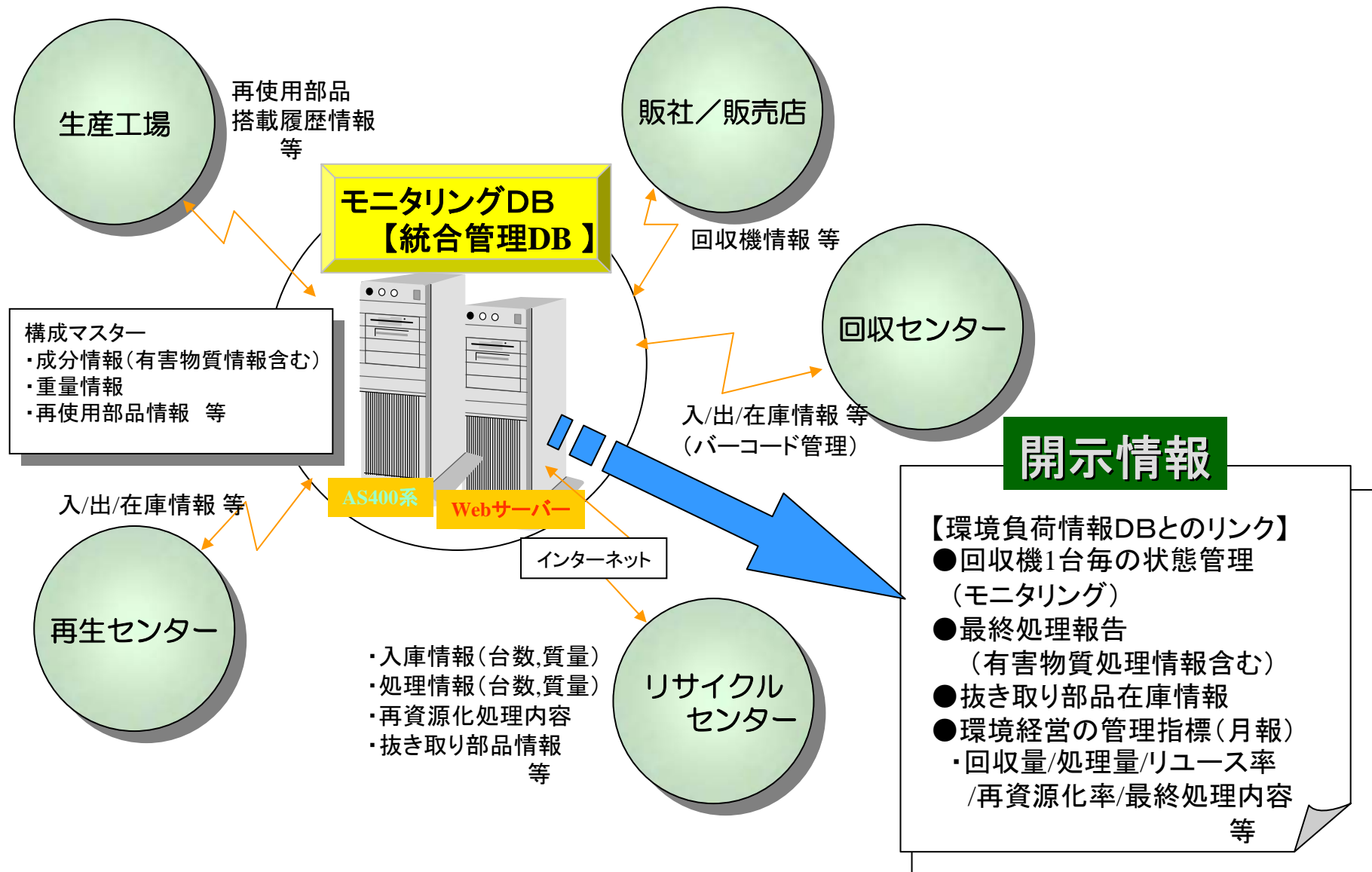
'96 リサイクルシステム構築開始

'98 リサイクルシステム完成



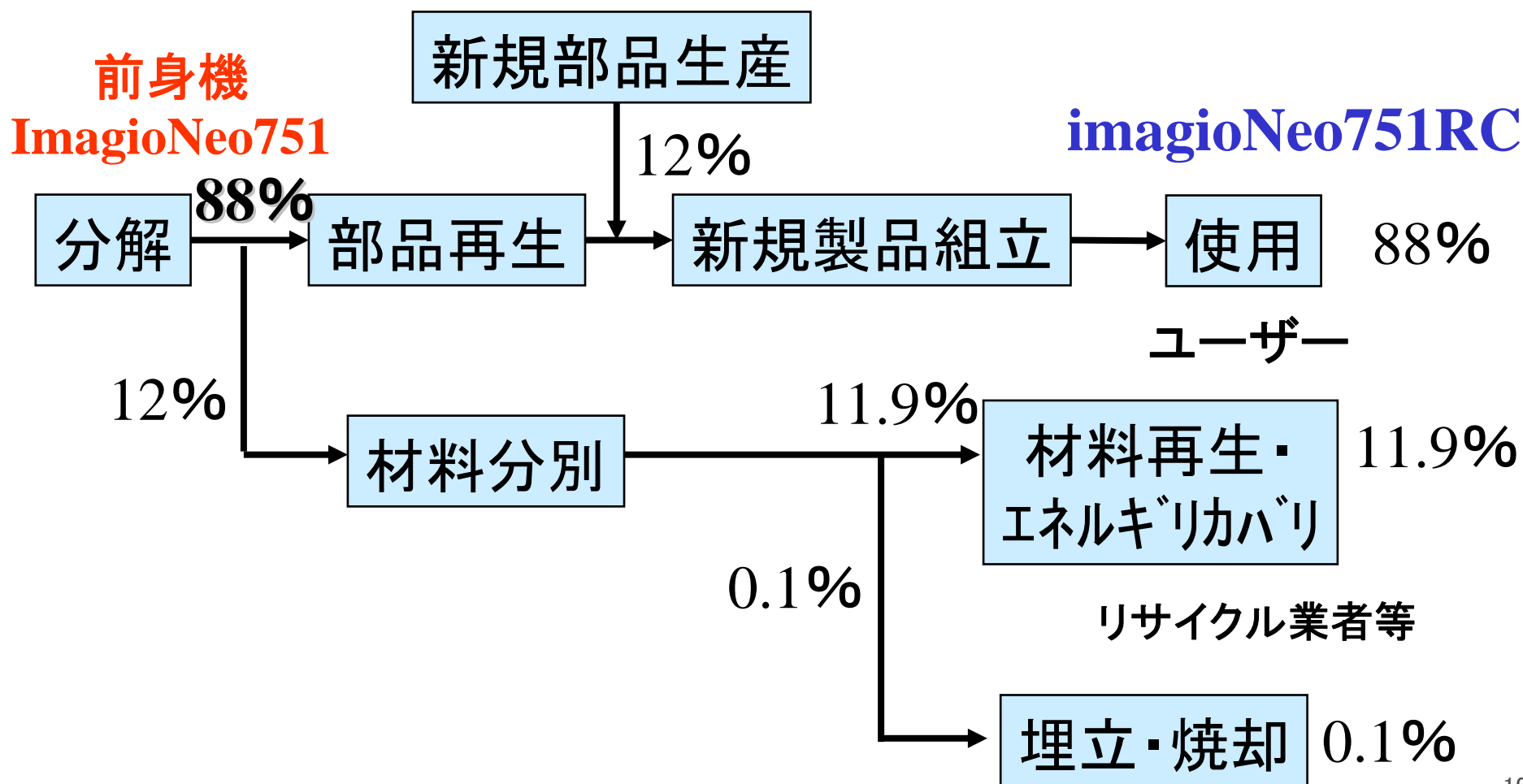
日本全国を完全網羅

リサイクル情報システム概要



製品のリサイクル

回収後の部品の行方 ■ 部品再使用88%を達成。
■ 埋立・焼却廃棄を0.1%へ低減。

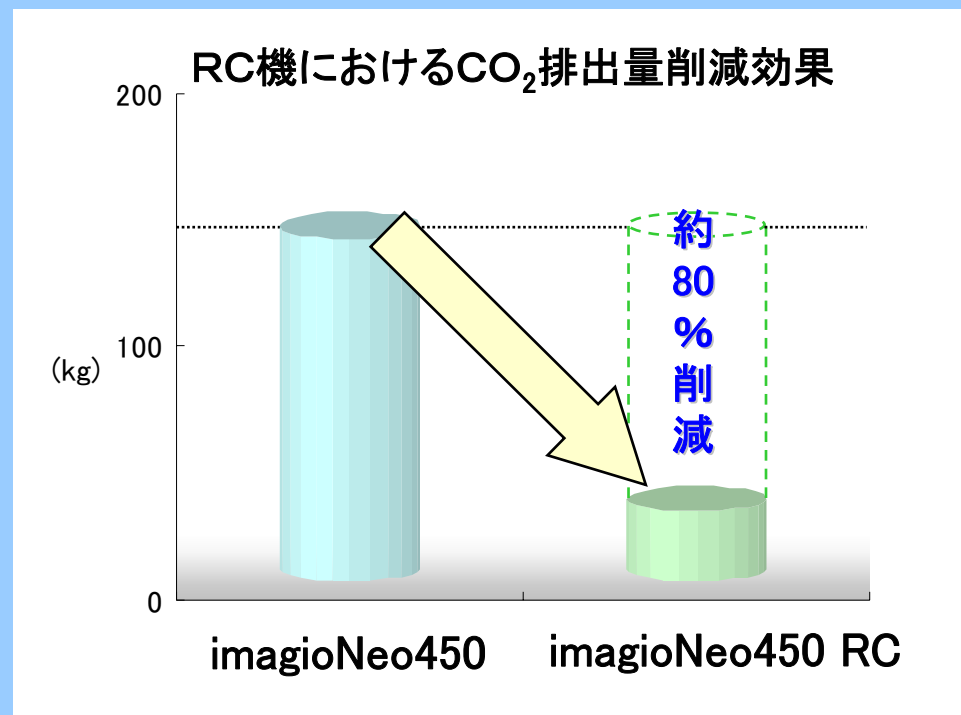


使用済製品・部品の有効利用：部品のリユース

imagio Neo450 RC



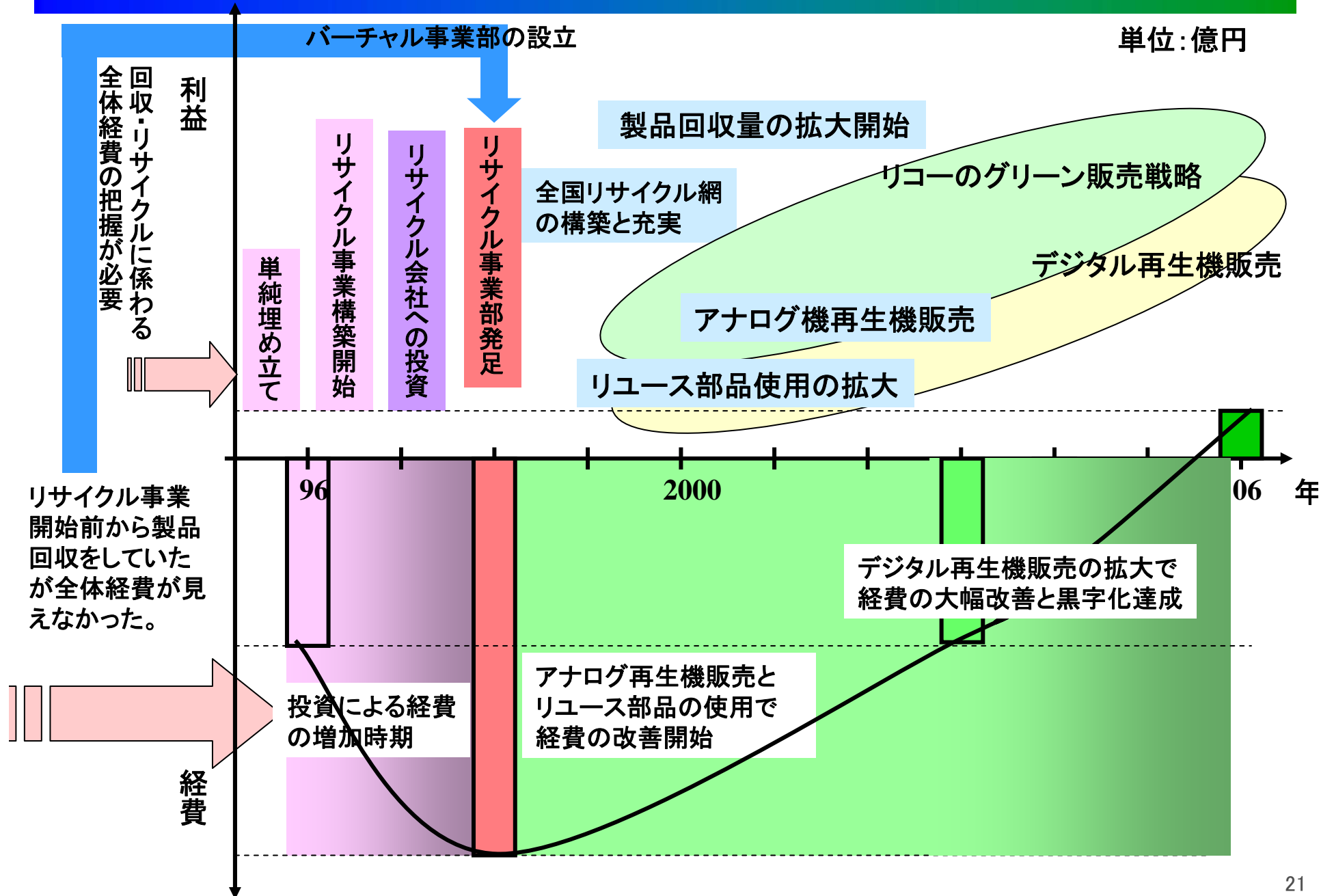
リユース部品使用率 82%以上



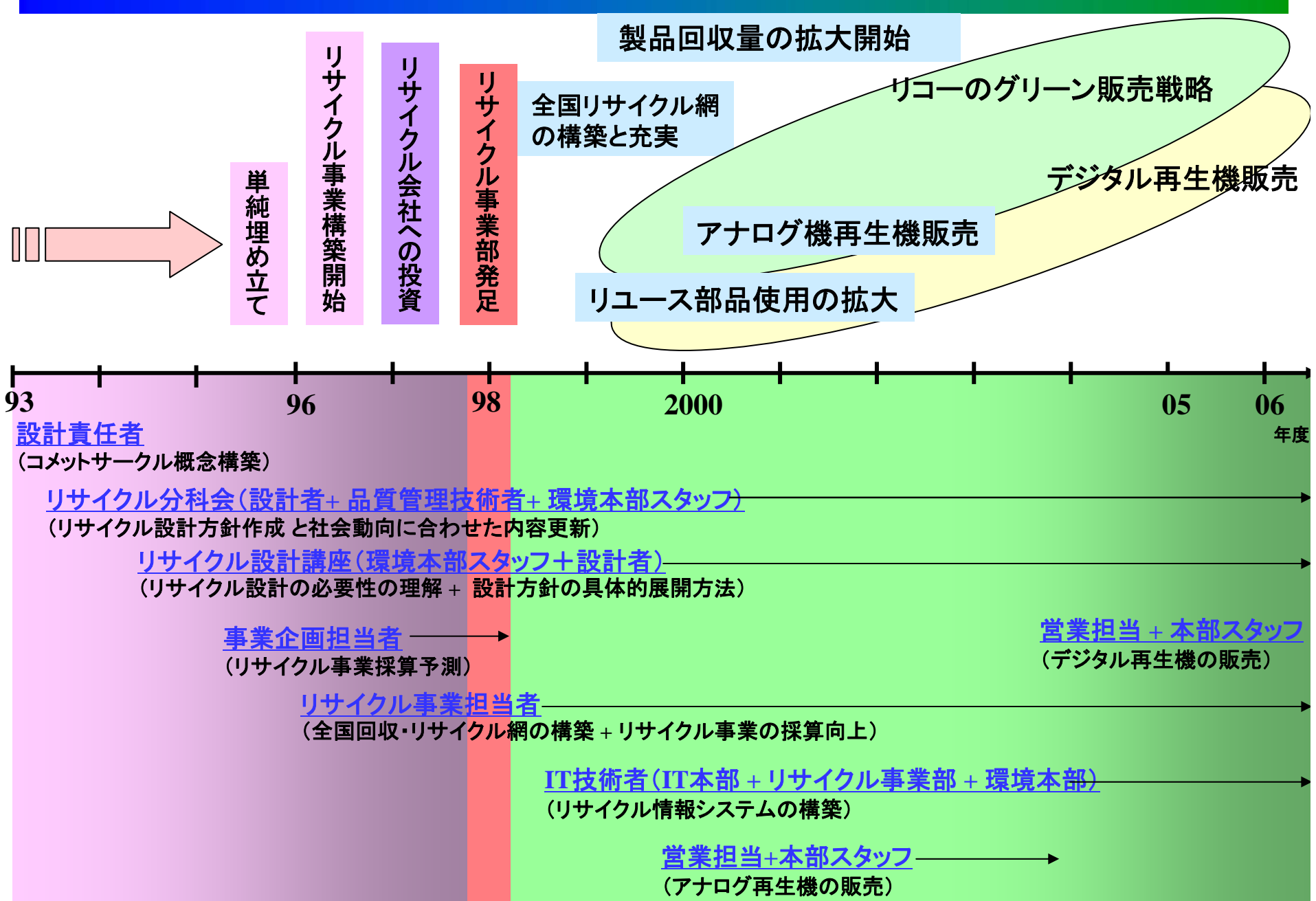
※上記CO₂排出量はそれぞれの一世代での素材投入から製品製造までの環境負荷算出結果によるもの

リコーのリサイクル事業採算推移

単位: 億円



循環型社会(コメットサークル)構築に係わってきた様々な人達



環境教育啓発施策一覽

分類	対象	分野	名称	手段
全社教育	専門	環境管理	サプライ製品安全(初級)	講習
			サプライ製品安全(上級)	
			製品環境影響評価技術(機器製品編)	
			製品環境影響評価技術(機器製品編)	
			LCA講座(基礎)	
			LCA講座(応用)	
			製品含有化学物質マネジメントシステム(概要)	
			廃棄物内部監査員教育	
			廃棄物内部監査員フォロー教育	
	社員幹部・環境担当	環境経営	環境経営大会	講演/方針発表など
	社員階層別	環境経営	導入教育(部長・次長・課長・新入社員研)	講習
	全社員	環境経営	環境経営初めの第1歩	e-ラーニング
			みんなの環境経営	小冊子配布
階層教育			講習	
環境社会貢献		自然教室初級編	講習/実習	
		自然教室中級編		
		森の教室		
社員家族	自然環境	全社会議	講演	
全社啓発	全社員	環境意識 環境経営・環境社会貢献	親子自然教室	講習/実習
			グローバルエコアクション	社内呼びかけ
			社内報”R’ing”記事掲載 電子版”R’ing”記事掲載	社内報 社内LAN経由
本部員教育	社会環境本部員	環境全般	本部員研修	講習/見学
世の中への働き掛け	他社環境担当	自然環境	環境月間シンポジウム	講演/ディスカッション
	子供達	環境教育	市村自然塾	合宿型学校
	子供達	自然環境	テンペルトットルストーリー	webコンテンツ
	一般	自然環境	生態系保全動画	
	他社経営者・環境担当	環境経営他	講演(リコーの環境経営)	講演
地域社会	環境全般	自然教室・出前教室		
モニタリング	全社員	環境意識	環境意識調査	webによるアンケート

*

*

*

コース構成 (学習部分)

このコースの標準学習時間は、約42分です。

序章 考えよう、環境経営

第1章 地球環境は今

- 1節 地球はどんどん暑くなっている？！
- 2節 消えていく森
- 3節 資源が足りなくなっている！
- 4節 人体にも影響を及ぼす化学物質
- 5節 今、企業に求められていること

第2章 リコーグループの環境経営

- 1節 目指す姿は「Three P's Balance」
- 2節 循環型社会を表すコメットサークル
- 3節 超長期ビジョンと環境行動計画
- 4節 環境対応から環境保全、そして環境経営へ
- 5節 環境経営の基盤と3つの領域

第3章 今日からできることを考えよう

- 1節 あらゆるステージで展開されている活動
- 2節 今日からできることを考えよう



RICOH GLOBAL ECO ACTION

RICOH

2007年6月5日「世界環境デー」

この日、全世界のリコーグループで、環境保全イベント「リコーグローバルエコアクション」を実施しました。



一人ひとりが地球を意識し、考え、行動するためのもので、今年約38ヶ国・104社の社員(45,634人)が参加しました。

参加者の90%から、環境保全への自覚を深めたとの感想がありました。



本イベントの真の成果はCO2の削減ではなく、社員一人ひとりの環境意識の高まりです。

環境経営に欠かせないのは、**社員全員の環境意識の向上、そして結束力**。ここに起爆剤としてのイベントの意義があります。



本部として求められる人材

【課題認識】

※環境経営スタッフとして、環境意識、ベースとなる環境知識についてバラツキが大きいのではないか？（推進上、環境分野全般で一定の知識が必要である。担当以外で自ら学ぶ意欲が低いのでは）

※リコーグループの仕組み、状況を十分に理解できているとはいえないのではないか？

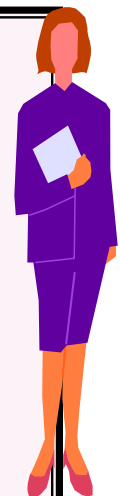
※本社スタッフとして必要な企画提案力が高いレベルにあるとはいえないのではないか？

【本部長デザイン】

社外でトップレベルと評価される
人材の育成！

◆社会環境本部として求められる人材◆

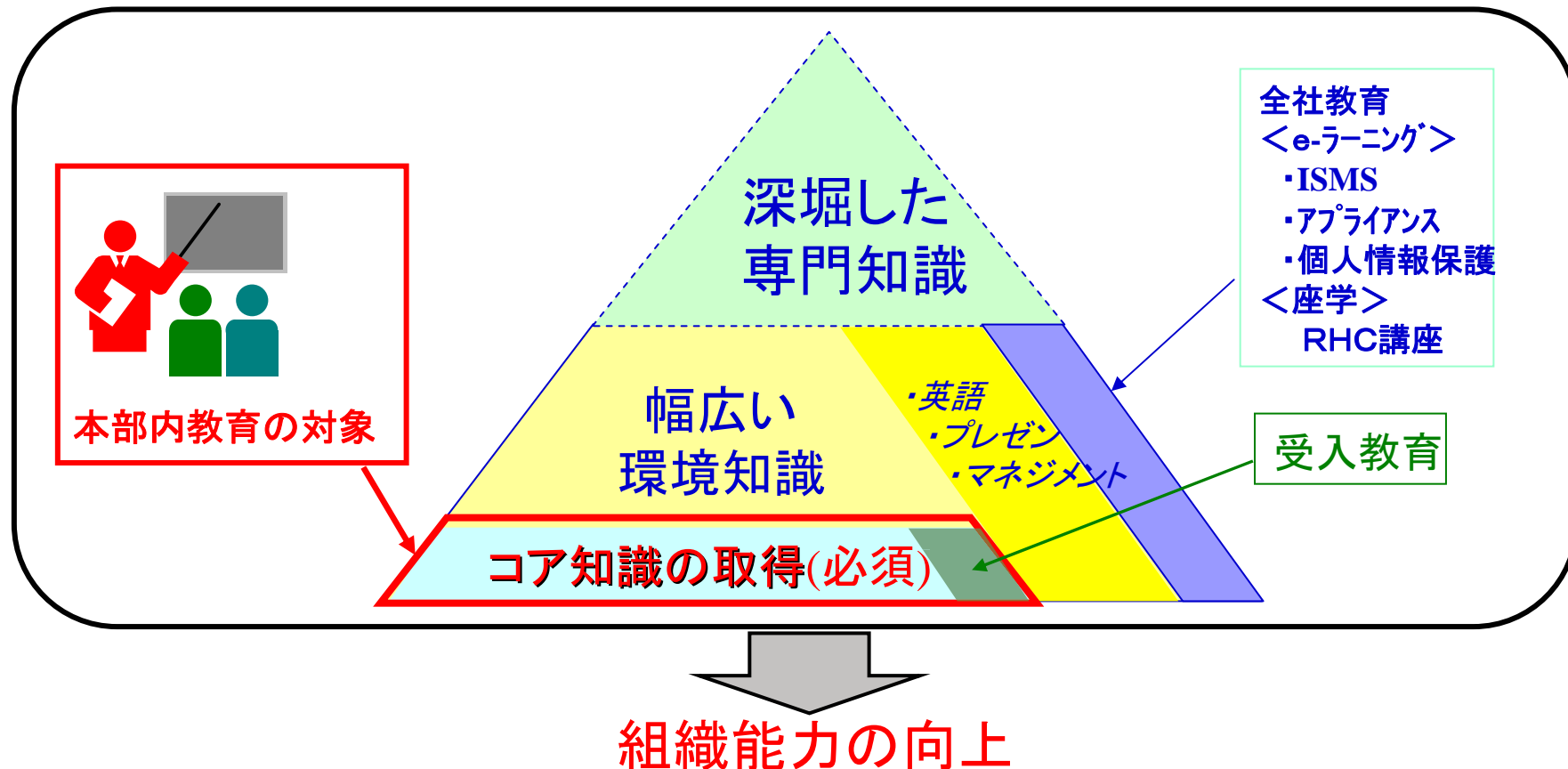
「環境」に対する認識（関心）と「環境保全」にむけた意識が高い。
「環境」について自ら学習し、幅広い知識を持っている。
業務と環境影響との結びつきを十分に理解している。
広い視野でリコーグループ全体を考えた提案ができる。
困難なテーマに対しても高いバイタリティをもって推進ができる。

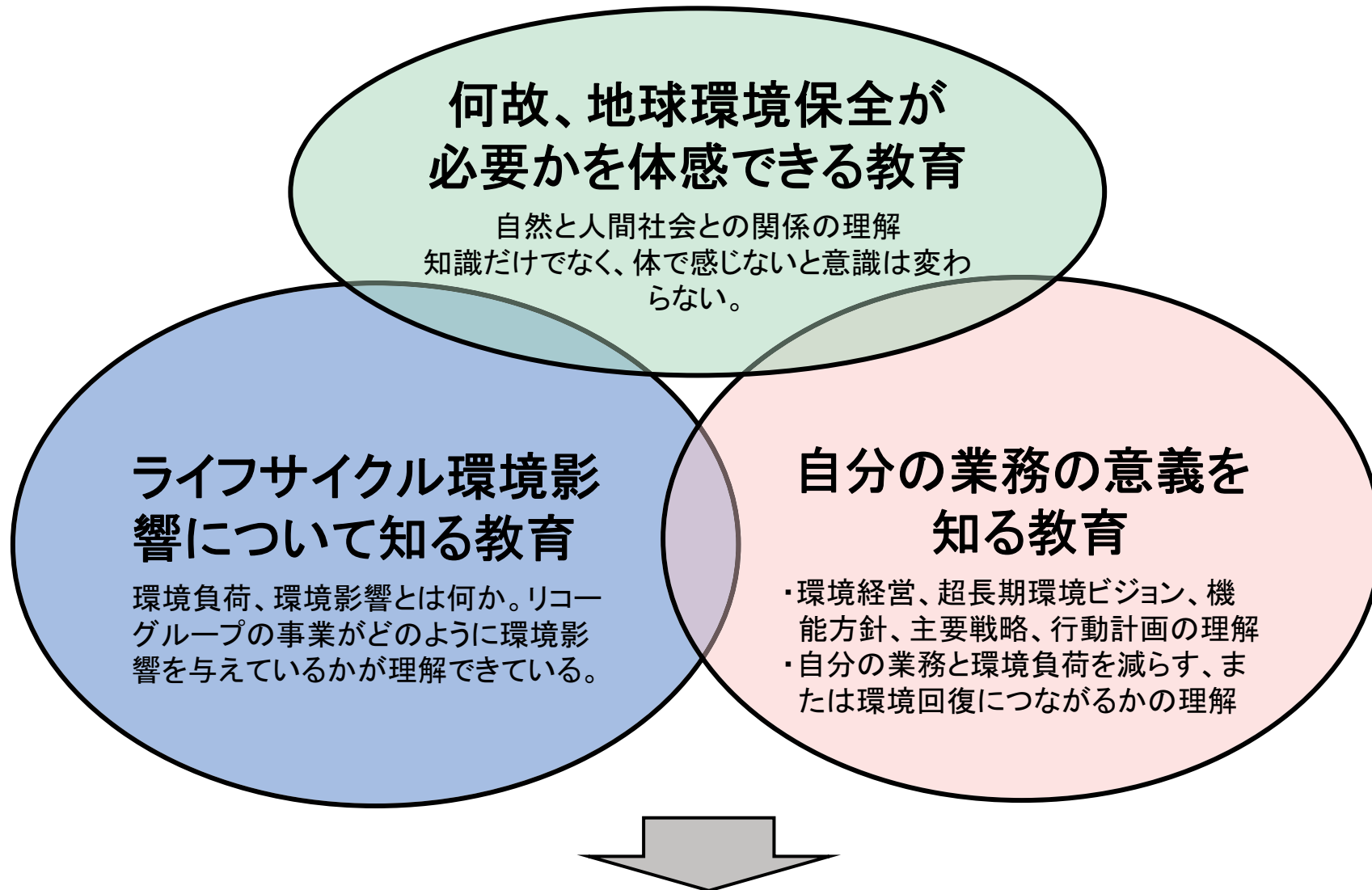


【目的】本部員の環境知識と意識を高めると共に自ら考える力を付ける

そのために・・・

- ・各分野の専門家に話を聞き、効率的に専門分野以外の周辺知識を取得する。
- ・教育の機会(きっかけ)を設定し、学習意欲の向上を図る。
- ・強制的な教育により、スタッフ間、本部員間のバラツキをなくす。





それぞれの深堀だけではなく、関連性も含めて理解する

本部員教育プログラム

<1日目>

■本部長講義

本教育に対する想い、リコーグループの環境経営概論 (10:10~10:45)

■講師紹介、フィールド学習事前説明 (10:45~11:30)

■「何故、地球環境保全が必要なのか？」を体感して学ぶ

✓富士山麓でのフィールド学習 (13:00~17:00)

✓講師による講義 (19:00~21:00)

<2日目>

■ライフサイクル環境影響について

「環境負荷、環境影響とはなにか？」影響による被害実例、ライフサイクル的に

環境負荷・影響の説明(温暖化、インパクト評価例) (9:30~10:30)

■自分の業務の意義を知る

✓リコーグループの環境影響、エコバランスの概略(紙、投入資源、素材、部品の影響)、
各施策とエコバランスの関係、現状と課題の理解 (10:30~12:00)

✓環境経営、超長期環境ビジョン、機能方針、主要戦略、行動計画の理解

(13:00~15:00)

■廃棄物処理場視察

(16:00~16:45)

1. 長期的・総合的視点をもった、実効のある環境保全活動を実践
2. 環境保全活動を通して経済的価値の創出
3. 環境保全活動を通してお客様へお役立ち
4. 経営者のリーダーシップと全員参加活動
5. 環境技術開発
6. 情報公開によって社会から信頼を得る

RICOH

ご清聴ありがとうございました。